

教頭先生より

「直接」の機会に分かるコミュニケーションの大切さ

新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けが5類に移行され、はや半年が経過しました。まだまだ感染者数が「0」とならない状況に不安を感じることもありますが、社会活動や生活活動もほぼコロナ禍前と同程度に戻り、withコロナ（コロナとの共生）という新しい生活様式にも少しずつ慣れてきたように思います。本校においても、5類移行後はマスク着用を個人判断に委ねるとし、6月の高総体以降は出席停止の取扱についてもコロナ禍前の基準に戻すように判断しました。このような生活様式の変化に伴い、学校内においても「オンライン」から「対面」、「縮小・削減」から「復元」、「書き込む」から「話す」など、いわゆる「静」から「動」への変化が多く場面で見られるようになってきました。

先日、同窓会の方々が2回学校を訪問され、何れも「生徒からの挨拶は声が大きく気持ちよかった」「さすが五高生だ」と笑顔で言われ、お褒めの言葉を頂戴しました。また、バラモンプランの発表会でお越しになられた県教育庁の方は、「先ほどの発表は、言葉に重みがあった。一杯調べて何が最善なのか頼もしい研究をされていますね。」と述べられ、地域の方からは「体育祭良かったよ」と意気揚々と話してくださり、お褒めの言葉を頂戴しました。

数あるコミュニケーションツールの中で、何がいかと問われたら、私は「分かりません」と答えるでしょう。理由は、言葉やジェスチャー、ボディ・ランゲージ、顔の表情どれもが単純にいいなあと思うからです。言語、非言語が交じっていますが、それぞれの良さがあり、どれもよいという判断しかできません。ただ、直接人と話をすることや、直接人と会うように「直接」でなければ、経験することのできない感覚だと思います。

これから先は、「直接」の機会が増えていくと予想されますが、挨拶で褒められた五高生、気持ちのこもった言葉で発表した五高生、体育祭で高校生らしい姿を見せてくれた五高生も、「直接」の機会を生かして、言葉や態度で気持ちや思いを外部に伝えました。言葉をはじめとしたコミュニケーションの大切さを今一度理解し、友人にどんな言葉を掛けようか、どんな表情で接するといいいのか、考えてみてはどうでしょうか。

11月1日は、本校の創立記念日でした。

以下、「創立記念日に寄せて」より一部抜粋

本校の歴史は、明治33年、当時の五島家当主、五島盛光公が「万国が交流を深め、発展していこうとするときに、学問をなさなければ、文明の民とはなりえない」との思いを持って、自ら旧福江城（石田城）を校舎敷地として、県へ寄贈され、旧制五島中学校が設立されたことに始まります。

（中略）

今、五島高校に集う全員が、さらなる学校の発展に寄与していきましょう。



2学期期末考査
※3年生は学年末考査
十一月二十四日（金）から
十一月二十九日（水）まで
年内最後の定期考査です。



部活動結果報告

○第75回 長崎県高等学校総合体育大会
駅伝競走大会（小浜市）

男子 15位
女子 11位

○長崎県高等学校新人体育大会 柔道

男子団体 3位
女子団体 2位
女子個人 1位 前田愁花

ほか多数入賞

柔道部は、本大会の成績をもって九州大会への出場が決定しています。

バラモン発表会

10月31日、本校体育館にて、2年生がこれまでの探究の成果を発表する「バラモン発表会」が行われました。外部から審査員をお招きし、審査が行われました。

最優秀賞 personality班
「LGBTQ+への理解度の高い島をつくりたい」
優秀賞 POTATO班
「外国人留学生との交流」
優秀賞 Vision Quest班
「五島の魅力を国内外に発信する」

共立女子大学賞
personality班・五島班



11月6日 芸術鑑賞会

ヘレン・ケラー ひびき合うものたち～



【生徒感想】

今回の芸術鑑賞会を通して、僕は役者の方々の熱く繊細なエネルギーを感じました。一つ一つのセリフに様々な表現があり、場面の切り替わりや感情の変化による演じ方に驚きました。特にサリバン先生の役の方のパワーあふれる演技が印象に残っています。演劇の魅力を感じることができ、自分にとってとても大きな経験になりました。(1年 大貝知弘)



文化の秋。
演劇鑑賞や講演会で深まる思考。

【生徒感想】

宇宙と聞くと、壮大でとても難しいイメージを抱いていたのですが、今日のお話を聞いてみると、難しいけれど、とても不思議で、もっと知りたいなと思うような事が多くありました。中でも月の地下空間の話が気になって、中はどんな感じなのか見てみたいな、と感じました。3年生になり、自分の進路について考えるときに、何を大切にして考えるべきか悩むことも多かったのですが、やっぱり自分の好きな事や興味に従う事が人生を考える上で大切なんだと思う事ができました。

宇宙に関する事の中にも、様々な分野があり、ヘルスケアなども関係があると知って、多くの方が協力し合って、宇宙の事が明らかになっていると分かりました。私も将来仕事で藤本さんのように達成する喜びが大きな仕事に取り組んでやりがいを感じたり、学びを深めたりしながら働きたいと感じました。そのためにも、今の自分の知識をもっと深めて成長したいというモチベーションになりました。貴重なお話をして頂き本当にありがとうございました。

(3年 松本 和)

11月7日 人生の達人セミナー



自分を突き動かす衝動に従うことの大切さ
～五島列島で生まれ育った私が
宇宙開発エンジニアになるまでに学んだこと～

宇宙航空研究開発機構JAXA 宇宙開発エンジニア
藤本 圭一郎 氏

講師略歴

平成9年度 五島高校卒業。
名古屋大学、東京大学大学院に進学。現在、宇宙航空研究開発機構JAXAで研究開発に携わる。



【生徒感想】

私は小さい頃から飛行機が好きでした。零戦のプラモデルを作ったり図鑑を眺めたりというように、美しい機体を見たり自分の力だけでは行けない「空」を自在に飛び回るといことがかっこよかったからです。そんな中、高校において自分の興味を昔の趣味として心の奥にしまっていた私にとって、今回の講演は非常に楽しい時間になりました。昔のSFが今や現実となり、また、現実化しようという人々の熱さを感じられます。様々な分野が結びつき、科学技術が進展しながら宇宙に挑戦する姿は、私が幼少期に感じていた「かっこよさ」をも超えているように感じます。

私は改めて人生の広さと、人生が一度しかないことを悔しく思います。そして、高校3年生にまでなってしまった私は今、人生を決める入り口にいると思います。その中で今日のお話を聞いて日常を大切にして学ぶこと、仲間や自分自身の興味を大切にする事の重要性を改めて学びました。自分の心の声を聞いて進んでいきたいです。

(3年 関田由一)

